

地域おこし協力隊のふくしま散歩!

みなさん、いかがお過ごしでしょうか?北海道の短い夏を満喫しましょう!

新聞でお読みになられた方もいらっしゃるかと思いますが、6月5日に観光庁のVisit Japan 大使に任命されているシンガポール在住のジョージ・リムさんが視察にお見えになりました。

やはり相撲というコンテンツは外国人にとって非常に興味深いものとおっしゃっていました。これからもトップセールスを含め前面に押し出していくべきだと感じました。

昨年のクルーズ船オプションツアーでは数多くの外国人がいらしています。

ジョージさんはこうおっしゃっていました。「新幹線が開業するのは素晴らしい機会だ。これは東北だけでなく、また道南だけでもなく。いわゆる青函圏で一つのまとまりをもった観光コンテンツにすべきだ。」と、『広域連携』。私はこう感じております。観光だけでなく、全てのことに於いて、これからは広域的な連携…つまり近隣市町村と手を組んで密接な連携を持たなければ、各市町村単独では成り立たないと感じています。

観光について言えば、札幌市や上富良野町・美瑛町・斜里町と比べると、道南地方の他にはない魅力とは、一体何なのでしょう?私はこう思います。目の前に見える青森県=青森県と道南を一度で楽しめることだと。これは他の北海道の地域にはない、道南だけの素晴らしい特性だと考えます。

では、具体的には…。以前から青函圏で連携についての協議はされております。地盤はできているはずなので、例えば包括的なモデルコースを作成したり、一つのコンテンツ…例えばサイクリングで江差町から松前町・福島町を通り青森側へというようなことも可能だと思います。

その連携の中で福島町は何を提供できるか。どのようなおもてなしができるのか。今あるモノをその時々々の需要やトレンドに合わせて変化させた上で提供しなければ、お客様は振り向きません。販売業だけでなく観光も、無形サービスも然り。その中でターゲットを明確に決めていく。例えば、外国人向けにはこういうサービスを、日本人向けにはこういうサービスを、という風に。その辺りが大変なのだと感じています。

福島町は『横綱の里』として打ち出しております。そして、最近では『スー女』と呼ばれる女性の相撲ファンが多くなっています。相撲に対して追い風となっていると感じています。この機を逃さず、もっと相撲を前面に押し出した観光誘致を実施していけば面白いことになるのでは?と考えています。直近では夏合宿があります。まずはこのPRに全力を尽くしたいと思います。



地域おこし協力隊
川端 教文



▲リム氏 町長と固い握手



▲リム氏 横綱記念館前にて